

短 報

富山県内のカワゴケの分布に追加する
2産地とその現状*

坂井 奈緒子

富山市科学博物館

939-8084富山市西中野町1-8-31

Two additional localities *Fontinalis hypnoides*
and the recent circumstances
in Toyama Prefecture

Naoko Sakai

Toyama Science Museum

1-8-31 Nishinakano-machi, Toyama 939-8084, Japan

Fontinalis hypnoides C. J. Hartm. カワゴケは、清水中に生育する大型の蘚類で、環境省の絶滅危惧Ⅱ類に指定されている(岩月ほか2008)。富山県内では、県西部に位置する庄川扇状地でのカワゴケの分布や生育状況についての報告がある(坂井 2000)。今回、富山市科学博物館植物標本庫(TOYA)で1964年に採取された標本が見つかったので、笹岡(1938)の文献記録と合わせて富山県内のカワゴケの分布について補足する。

カワゴケの追加産地

1. 新たに見つかったカワゴケの標本と産地の現状

1964年1月16日に富山県上市町伊折で進野久五郎氏が採取したカワゴケの標本がTOYAにあることがわかった。標本のラベルには地名の後に、(小川の中)と記載されている。

上市町伊折は富山県東部を流れる早月川の左岸に位置し、劔岳の麓に近く、標高は約410mである(図1)。これまでの富山県内のカワゴケの分布調査から、生育が予想されるのは清水が緩やかに流れる小流と推測し、2009年5月27日に調査した。伊折地区で傾斜が緩やかで小流のある所は、伊折集落周辺に限られており、進野氏が採取した場所は、集落内にある山から清水が流れ出している数本の小流と推測された。集落内の水路の河床は砂礫、側面は土手や石積みであったが、カワゴケは見つからなかった。流れには *Platyhypnidium*

riparioides (Hedw.) Dix. アオハイゴケと *Chiloscyphus polyanthus* (L.) Corda フジウロコゴケが旺盛に生育していた。また、清水を利用して、ワサビ田が作られていた。カワゴケの絶滅の要因に河川改修があるが(環境庁自然保護局野生生物課 2000)、調査地の水路ではコンクリートがほとんど用いられておらず、大規模な河川改修がされたとは考えられない。但し、数本の小流は集落のはずれで1本となりスギ植林地を流れ、その途中で三面張りコンクリート製の水路となり早月川へ流入していた。

上市町伊折の小流の水中に生育する蘚苔類一覧

科の配列は岩月(2001)に従い、属名、種小名はアルファベット順に配した。学名はIwatsuki(2004)、Yamada & Iwatsuki(2006)に従った。学名、和名に続き、富山市科学博物館の標本登録番号を示した。採取者名は著者の場合は省略した。標本はすべてTOYAに保管されている。

Bryopsida 蘚類

Amblystegiaceae ヤナギゴケ科

Platyhypnidium riparioides (Hedw.) Dix. アオハイゴケ 2009年5月27日, 5807.

Fontinalaceae カワゴケ科

Fontinalis hypnoides C. J. Hartm. カワゴケ 1964年1月16日, 進野久五郎, 5434.

Hypnaceae ハイゴケ科

Vesicularia ferriei (Card. & Thér.) Broth. フクロハイゴケ 2009年5月27日, 6057.

Hepaticae 苔類

Geocalyceae ウロコゴケ科

Chiloscyphus polyanthus (L.) Corda フジウロコゴケ 2009年5月27日, 5673, 5674.

Aneuraceae スジゴケ科

Riccardia chamedryfolia (With.) Grolle ナミガタスジゴケ 2009年5月27日, 5672.

Pelliaceae ミズゼニゴケ科

Pellia endiviifolia (Dicks) Dumort. ホソバミズゼニゴ

*富山市科学博物館業績第389号

ケ 2009年5月27日, 5675.

2. 笹岡(1938)のカワゴケの記録と産地の現状

富山県内に産するカワゴケの最も古い記録は、笹岡(1938)である。それ以降、坂井(2000)まで報告はされていない。笹岡(1938)の産地は、東石黒村(西)と記されており、現在の南砺市、平成16年に8町村が合併する前は福野町で、小矢部川と山田川の合流点以南の両川に挟まれた地区(標高50~65m)である。その地区を2005年夏に調査したが、カワゴケは確認できなかった。カワゴケの生育に適した小流がどのあたりにあるか見当がつかなかったこともあるが、周辺は田園地帯で多くの小流が河川改修されていることから、現在は生育しない可能性が考えられる。

富山県内のカワゴケの分布

今回報告する標本と笹岡(1938)、坂井(2000)の産地をまとめると、富山県内のカワゴケの分布は図1のとおりである。しかし、上市町伊折や東石黒村(西)(笹岡1938)ではカワゴケの生育が確かめられないため、現在の確実な分布は、庄川扇状地の2流域のみである。

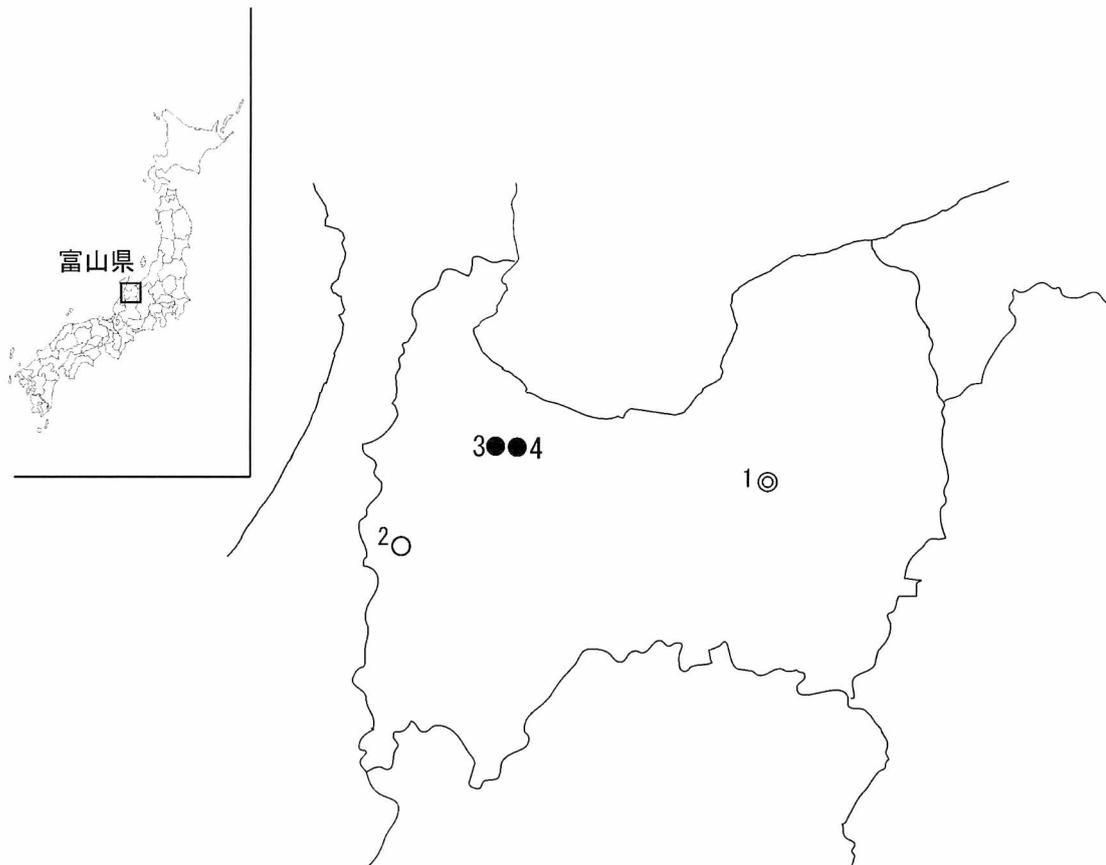


図1. 富山県のカワゴケの分布

1: 上市町伊折, 2: 東石黒村(西), 3, 4: 庄川扇状地。

○: 文献記録はあるが生育が確認できない産地, ◎: 標本はあるが生育が確認できない産地,

●: 記録があり生育する産地。

引用文献

- 岩月善之助(編), 2001. 日本の野生植物 コケ. 355 pp., 192 pls. 平凡社, 東京.
- Iwatsuki, Z., 2004. New catalog of the mosses of Japan. J. Hattori Bot. Lab., 96: 1-182.
- 岩月善之助・古木達郎・神田啓史・長谷川二郎・樋口正信, 2008. 蘚苔類レッドリスト2007年版. 蘚苔類研究, 9: 259-267.
- 環境庁自然保護局野生生物課, 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブック 9 植物Ⅱ. 427 pp. 自然環境研究センター, 東京.
- 坂井奈緒子, 2000. 富山県における水生蘚苔類の生態的知見. 富山市科学分化センター研究報告, (23): 153-164.
- 坂井奈緒子, 2008. 富山県のカワゴケの分布と生育環境. 富山市科学博物館研究報告, (32): 1-12.
- 笹岡久彦, 1938. 富山県産の蘚類(其の二). 富山教育, (295): 65-77.
- Yamada, K. and Iwatsuki, Z., 2006. Catalog of the hepatics of Japan. J. Hattori Bot. Lab., (99): 1-106.